



# 帯広西ロータリークラブ

## 第2362回例会

# 会報

### 2021.10.21



■RI第2500地区スローガン■

ロータリーの素晴らしさを  
広めましょう

■クラブ・テーマ■

覧古考新～感謝と恩返し～

### 会長報告

#### 小谷典之の覧古 Part2

ー大学時代から帯広開業までー

札幌医大入学後は一度もまともに講義を聴くこともなく、春は女子大生と合コン、夏は銭函ヨットハーバーでウインドサーフィン、秋は試験勉強、冬は札幌国際でスキーという生活を6年間続けていました。年末年始1ヵ月にわたる卒業試験、3月の医師国家試験を無難に乗り越え、留年もせずに医師免許取得しました。

自分が何科の医者になるかは医学部6年生を対象に行われる医局の説明会や先輩の話を参考に自ら決めます。今後、高齢化社会が進むこと、折角医者になったからには合法的に人の体にメスを入れたいとの思いから泌尿器科を選択しました。

学生時代から男なら開業と思ってましたが、医学博士の学位を取得してから開業と考え、患者さんを治療する臨床より癌細胞の転移に関する基礎研究に4年間没頭することになります。こうした大学院生活は月収10万円ボーナスなし、先輩の病院で週末アルバイトしてやっと貯めた貯金もアメリカの泌尿器科学会発表のための旅費で全部使い果たすという過酷なものでした。

その苦勞のおかげで教授から医学博士取得の太鼓判を押され、開業準備のため俱知安厚生、浦河赤十字、札幌時計台病院と泌尿器科医一人しかいない病院で手術の腕を磨きます。

泌尿器科医になって初めての手術は精管結紮すなわちパイプカットです。次に下腹部を切開しての膀胱の手術。それらをクリアするといよいよ側腹部を豪快に切開し第9肋骨を切り落としてからの腎臓摘出手術とステップアップしていきます。

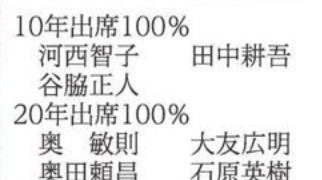
卒業して6年くらい経つと後輩への指導医になります。手術を含めた臨床はもちろん、学会発表や基礎研究の指導もしなければなりません。自分が術者なら輸血もなく1時間で終わる手術を後輩とやると自ら出血を止めることもできず、無駄な輸血もしながら3時間も付き合わなければならないのです。その他、学会発表のスライド作りや論文の校正など後輩たちへの指導は忍耐しかありません。そんな大学院生活に我慢できず医学博士取得後2年間の御礼奉公すなわち地方病院勤務を終え、34歳の時に6億円借金して帯広で開業しました。

以上、大学入学から帯広開業までの覧古でした。

### 小谷 典之 会長



- ②11月からは通常通りの出席に戻る
- ③昨年度の松田前ガバナーより表彰  
会員増強・拡大賞 会員維持率  
100%  
帯広西ロータリークラブ  
出席優秀表彰記念バッジ贈呈



### ニコニコ献金

堀内 里恵 会員

13件の献金をいただきました。  
佐藤聡50周年実行委員長・西藤博行社会奉仕委員長・鈴木亨会員・茨木雅敏会員・久保且佳会員・小谷典之会長・森房明副幹事・石原英樹会員・飯田正行会員・中川芳明会員・天野清一会員・菊池俊博会員・堀内里恵会員



### 会務報告

①帯広西RC、夜間例会開催のご案内

目 時 10月28日(木) 午後6時30分  
場 所 北海道ホテル

### 工藤 正宏 幹事

ニコニコ	10月21日	31,000円
献金	累計	224,000円 (10月21日現在)



会 長 小谷 典之 副会長 田中 耕吾 会場監督理事 天野 清一 発行：広報委員会  
幹 事 工藤 正宏 副会長 谷脇 正人 プログラム委員理事 立崎 貴之 委員長 郷 誠一 (副)山口 貴可



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)  
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル東館3階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033



# 「あの頃の社会奉仕活動」

Rotary 帯広西ロータリークラブ  
Obihiro West Rotary Club

**50年の歩み前編** (創立より25年まで)

社会奉仕への取り組み  
社会奉仕委員会 西藤博行

担当例会

第1回：“50年の歩み前編”  
創立から、前半25年の活動を振り返り

第2回：“50年の歩み後編”  
後半25年の活動を振り返り

第3回：“そして今後は”  
これから未来に向かって「何ができるか」

ロータリーとは [https://www.rotary.org/ja/about\\_rotary](https://www.rotary.org/ja/about_rotary) より抜粋

私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。

1905年にシカゴで創設されたロータリーでは、110年以上、さまざまな職業をもつ人や市民のリーダーが「世界を変える行動家」となり、その経験と知識を生かして社会奉仕活動や人道的活動に取り組んできました。開学志向、平和構築、水と衛生の改善など、幅広い分野で持続可能な影響をもたらすために、ロータリーの会員は毎日、世界のどこかで活動しています。

**五大奉仕とは**

ロータリーの公式標語「道義の奉仕」はロータリーの奉仕の精神を表し、ロータリーの五つの「奉仕部門」は活動を極く簡潔に表わします。

1. クラブ奉仕を通じて、会員が楽しみ、永く交友を築くとともに、クラブのスムーズな運営を促進します。
2. 職業奉仕を通じて、自分の職業スキルを奉仕に生かし、あらゆる行動における高潔さを促進します。
3. 社会奉仕を通じて、地元地域のニーズに取り組み、長期的な改善をもたらすために地域の人々とともに活動します。
4. 国際奉仕を通じて、世界中の人道的ニーズに取り組み、世界理解と平和を促進します。
5. 青少年奉仕を通じて、青少年や若者たちとの活動を行い、次世代のリーダー、時代の先駆者、平和構築者を育成します。

この五大奉仕について図解したものが【ロータリーの樹】となります。

ロータリーの樹

ロータリーの樹の根は、道義の奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕の五つです。

道義の奉仕 最もよく奉仕する者、最も多く頼られる者

× 100-1000-700002 8-5994161000000

**決議23-34 社会奉仕活動に対する方針**

・国際ロータリーにおける社会奉仕に関する1923年の声明

ロータリーにおいて社会奉仕とは、ロータリアンのすべてがその個人生活、事業生活、および社会生活に奉仕の理想を適用することを奨励、育成することである。

この奉仕の理念の適用を行うことについては、多くのクラブが会員による奉仕にその機会を与えるものとして、様々な社会奉仕活動を進めてきている。以下に掲げる諸原則は、ロータリー及びロータリークラブの綱領として、また、社会奉仕活動に対するロータリーの方針を明確に表すものとして適切であり、また管理に役立つものであることを認め、これを採用するものである。

Rotary

**社会奉仕の事例**

- ・人間尊重
  - ① 社会的弱者への支援 ② 保健、衛生、長寿で健康 ③ 子育て支援
  - ④ 社会治安の向上 ⑤ 才能のある人の発掘・支援
  - ⑥ 文化交流で心豊かな人の育成 ⑦ 災害に備える
- ・地域発展
  - ① 産業育成 ② 観光の街づくり ③ 街並み整備
- ・環境保全
  - ① 山、野の樹木・森林の育成 ② 河川の清掃・魚や虫の棲み場復活
  - ③ 街路の清掃 ④ 歩行者天国 ⑤ クリーンエネルギー
- ・協同奉仕
  - ① 街頭キャンペーン ② 国際交流

**1972年 (昭和47年)**

当時の出来事	当時の奉仕	R C活動内容 (一部抜粋)
1972.2 - 太平洋戦争の犠牲者追悼行事として26年ぶりに、グランドホテルで開催	1972 帯広市立石見小学校開校	1972.2 帯広西R C設立
1972 帯広市総合体育館完成		1972 帯広市総合体育館完成

**1973年 (昭和48年) ~ 1975年 (昭和50年)**

当時の出来事	当時の奉仕	R C活動内容 (一部抜粋)
1970年代後半 キータイタイ 発生	1975 5月18日の2夜にわたる 洪水被害	1974 勸学青少年ホーム (現在の「子どもプラザ」) へ役員就任
1973 オイルショック	1975 「車道の雪」事業開始	1975 帯広市に「雪道ボランティア」の設立

**1976年 (昭和51年) ~ 1978年 (昭和53年)**

当時の出来事	当時の奉仕	R C活動内容 (一部抜粋)
1976 ロットマン事件で田中 尚元議員辞職	1977 「中央公園」開設	1977 中央公園ベンチ設置
1977 ニューヨーク大停電	1978 北海道自治員講習学校開校	1978 身体障がい者訓練用アットリカー完成

**1979年 (昭和54年) ~ 1981年 (昭和56年)**

当時の出来事	当時の奉仕	R C活動内容 (一部抜粋)
1979 第二次オイルショックが起る	1981 新潟空迎 (たから商店 空迎) が開始	1979 帯広市建設課へテレビ、ビデオ、自転車等寄贈
1979 日米首脳会談がラスベガスで	1981 帯広市15号による渇水・雪害被害	1980 身体障がい者訓練用アットリカー完成
		1981 帯広市消防団の合併

**1982年 (昭和57年) ~ 1984年 (昭和59年)**

当時の出来事	当時の奉仕	R C活動内容 (一部抜粋)
1982 レバノン危機	1982 帯広市百年記念誌出版	1983 帯広市立東部高等学校へ高み木ネット寄贈
1983 大韓航空機墜落事件	1983 帯広市の高地上段民団地建設	1984 小規模交通手段を促進する高み木ネットの活用、ミニシアター設置

**1985年 (昭和60年) ~ 1987年 (昭和62年)**

当時の出来事	当時の奉仕	R C活動内容 (一部抜粋)
1986 ティルズハイブリッド子会社設立	1985 帯広市シニアクラブ開設	1985 市福祉課へ身体障がい者用車椅子寄贈
1987 フォックスマーケティングの前身である新野	1985 帯広市の森林整備開始	1987 市総合福祉センターに認知症等予防教室のあるホスピタリティショップ開設

**1988年 (昭和63年) ~ 1990年 (平成2年)**

当時の出来事	当時の奉仕	R C活動内容 (一部抜粋)
1988 イラン・イラク戦争の開始	1989 クリスマスイルミネーション	1988 帯広市45回生・同窓会・同窓会創立
1989 ヘルリソンの閉鎖	1990 帯広市の高野球場完成	1989 ずいぶん減価償却資産を寄贈し、会員による福祉活動の推進

**1991年 (平成3年) ~ 1993年 (平成5年)**

当時の出来事	当時の奉仕	R C活動内容 (一部抜粋)
1991 湾岸戦争の発生	1991 帯広市立市民会館開設	1992 帯広市立市民会館へ高み木ネット寄贈
1991 ソビエト連邦の崩壊	1992 市庁舎改修完了	1993 北海道内市町村合併促進

**1994年 (平成6年) ~ 1997年 (平成9年)**

当時の出来事	当時の奉仕	R C活動内容 (一部抜粋)
1994 アフタで4万人以上が死亡	1995 道庁自動車道 (道東道) 1号線水に1号山田川開通	1994-1995 帯広市社会福祉課へ高み木ネット寄贈
1997 長年知らずの赤松の安否調査	1996 帯広市の森林整備完了	1996 帯広市総合福祉センターに認知症等予防教室の活用

**まとめ**

- ・以上、設立から25年間の当クラブの社会奉仕活動を振り返ってきましたが、戦後からの高度経済成長期が1973年に終焉を迎えたが、当時の田中内閣は日本列島改造論を提唱し、大都市と地方の格差を埋めるため高速道路を全国に張り巡らせ地方に病院や港湾、学校など公共施設を次々と建てて大都市と地方とのインフラ格差を埋めた。
- ・大規模で持続的な公共投資は地方の雇用経済をさらに潤わせることになった。
- ・当クラブの25年間はちょうどこの時期と重なり、いい方は悪いかもしれないが会員各社の業績も良く社会奉仕＝“助成”や“物の寄贈”が多い。